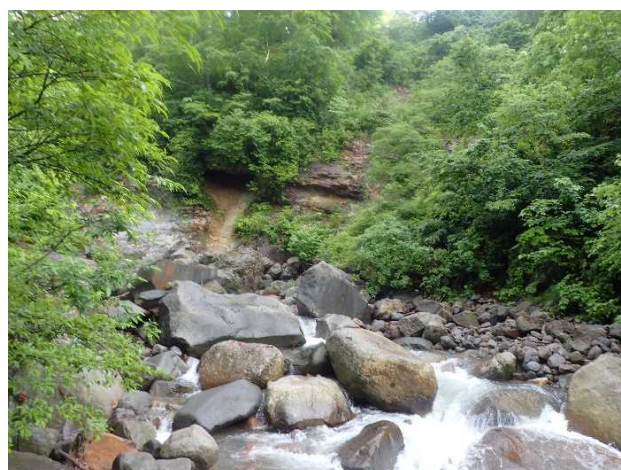


栗駒山・栃ヶ森山周辺森林生態系保護地域

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 岩手南部森林管理署
所在地	岩手県(一関市、奥州市)
面積	8,579ha(全体16,333.64ha)
設定年	平成6年4月1日
保護林の概要 (設定目的)	栗駒山・栃ヶ森山周辺は、日本海型のブナ・チシマザサ型で林床にユキツバキを伴い、またミヤマナラとハイマツが混交し、亜高山帯針葉樹林が発達しない特異な景観を呈しており、国定公園に指定されている。また、宮城県側栗駒山麓中腹には「千年クロベ」と呼ばれる巨木をはじめ、周辺のブナ林内に自生するネズコ(クロベ)が点在する。この原生的な天然林を保存することを目的として設定されている。



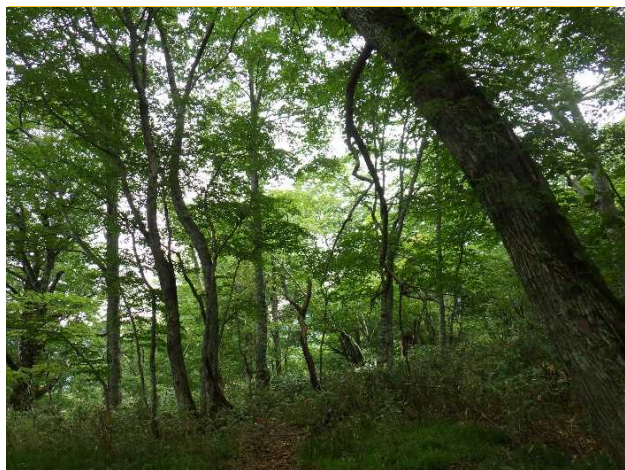
モニタリング調査概要

実施年度	令和3年
調査項目	樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査、野生動物の生息状況調査等
調査手法	森林詳細調査として、ブナ等の生育地において調査プロットを2箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。哺乳類自動撮影、鳥類スポットセンサスを実施。
結果概要	ブナを主体とした森林に病虫害、鳥獣害等の被害は見受けられなかった。両プロットとも幅広い直径階でブナの生育が確認された。樹木、下層植生の生育状況は良好であった。林況に大きな変化はなく、林相は維持されていた。ツキノワグマ、イタチ科の一種の痕跡、森林性鳥類等が確認された。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

早池峰山周辺森林生態系保護地域

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 岩手南部森林管理署遠野支署
所在地	岩手県(遠野市、花巻市)
面積	3,543.85ha(全体8,144.71ha)
設定年	平成5年8月20日
保護林の概要 (設定目的)	本保護地域は、早池峰山周辺の原生的な森林生態系を保存することにより、自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、森林の管理・学術研究に資することを目的として設定された。早池峰山北面には国指定天然記念物「アカエゾマツの自生南限地」がある。森林以外にも原生的な自然が良好に保持されており、特産種、希産種を含む数多くの高山植物が生育し、我が国における高山植物の宝庫となっている。



モニタリング調査概要

実施年度	令和3年
調査項目	樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査、野生動物の生息状況調査等
調査手法	森林詳細調査として、ブナ、シナノキ、コメツガ等の生育地において調査プロットを2箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。哺乳類自動撮影、鳥類スポットセンサスを実施。
結果概要	ブナ、シナノキ、コメツガ等の樹木の生育が見られ、林相は維持されていた。一方、ニホンジカの撮影、食痕や角研ぎ痕等の確認があったため、引き続き周辺地域でのニホンジカの生息状況及び保護林内の森林への影響を注視していく必要がある。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

焼石岳生物群集保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 岩手南部森林管理署
所在地	岩手県(奥州市、胆沢郡金ヶ崎町)
面積	8,768.22ha
設定年	平成10年1月7日
保護林の概要 (設定目的)	焼石岳周辺の高山帯は「ハイマツ-コケモモ型」を主体に「ハクサンイチゲ型」「ガンコウラン-ミヤマダイコンソウ型」等の植物群落からなり、リシリシノブ、カンチスゲ、エゾノミクリゼキショウ等の希少な植物が生育する。亜高山帯、山地帯にも多様な植物群落が見られる。これらの植物群落を一体のものとして保存するとともに、奥羽山脈緑の回廊の核として森林生態系の効果的な保全に資するために設定する。



モニタリング調査概要

実施年度	令和3年
調査項目	樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査等
調査手法	森林詳細調査として、ブナ等の生育地において調査プロットを2箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。
結果概要	ブナを主体とした森林に病虫害、鳥獣害等の被害は見受けられなかった。湿原に近接するプロットでは高木層は形成されず、亜高木層以下にブナ、ミネカエデ等の生育が確認された。山腹斜面のプロットでは幅広い直径階でブナの生育が確認された。両プロットとも樹木、下層植生の生育状況は良好であった。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

タデ沼ホオノキ遺伝資源希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 岩手南部森林管理署
所在地	岩手県奥州市
面積	32.30ha
設定年	昭和62年
保護林の概要 (設定目的)	岩手県奥州市の胆沢川上流域に位置する、ブナを主とする天然林。ブナ、ホオノキ、イタヤカエデの遺伝資源の保存を目的として設定。 なお、本保護林はタデ沼ホオノキ林木遺伝資源保存林から移行したものである。



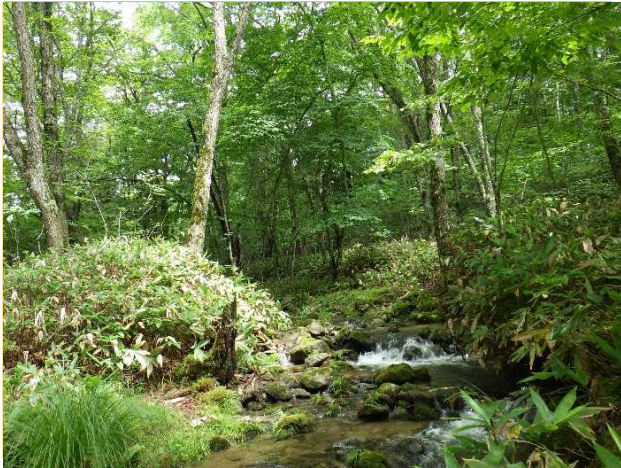
モニタリング調査概要

実施年度	令和3年
調査項目	樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査等
調査手法	森林詳細調査として、ブナ、ホオノキ、アカイタヤ等の生育地において調査プロットを1箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。タデ沼及び周辺の簡易な植生図を作成。
結果概要	ブナを主体とした森林に病虫害、鳥獣害等の被害は見受けられなかった。保護対象種ブナ、ホオノキ、アカイタヤは、保護林内での良好な生育が確認された。林況に大きな変化はなく、林相は維持されていた。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

琴畑湿原ハルニレ遺伝資源希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 岩手南部森林管理署遠野支署
所在地	岩手県遠野市
面積	17.00ha
設定年	昭和62
保護林の概要 (設定目的)	岩手県遠野市猿ヶ石川支流の琴畑川最上流部に位置するこの地域の湿原は、北上山地の中で、数少ない中間湿原の初期の段階にあるものとして、今後における湿原の遷移の系列が注目されるものであり、湿原周辺の他に例をみないハルニレ、エゾノコリンゴの群落及びモリアオガエルの生息とともに、学術的価値のきわめて高いものである。この地域のミズナラ、ハルニレの遺伝資源の保護のため設定する。



モニタリング調査概要

実施年度	令和3年
調査項目	樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査等
調査手法	森林詳細調査として、ハルニレ、ミズナラ等の生育地において調査プロットを1箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。湿原及び周辺の簡易な植生図を作成。
結果概要	ミズナラを主体とした森林に病虫害、鳥獣害等の被害は見受けられなかったが、ニホンジカの糞が確認された。保護対象種ハルニレ、ミズナラは、保護林内での良好な生育が確認された。林況に大きな変化はなく、林相は維持されていた。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

野沢額山キタカミヒョウタンボク希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 岩手南部森林管理署遠野支署
所在地	岩手県花巻市
面積	25.34ha
設定年	平成10年1月7日
保護林の概要 (設定目的)	キタカミヒョウタンボクはイボタヒョウタンボクの変種で、岩手県内の北上山地にのみ局所的に自生する低木であり、野沢額山の西斜面にある2～4mの花岡岩からなる崖錘の表面に形成された薄い土壌に生育している。植物群落としてはウダイカンバを混交するブナ・ミズナラ群落で、他に特徴的な種として岩手県を分布北限とするミヤマツチトリモチがある。この植物群落を保存し、学術等に寄与するため設定する。



モニタリング調査概要

実施年度	令和3年
調査項目	樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査等
調査手法	森林詳細調査として、カツラ等の生育地において調査プロットを2箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。キタカミヒョウタンボクについては胸高直径1cm以上の全個体を記録。
結果概要	トチノキ、オヒョウ、カツラを主体とした森林に病虫害、鳥獣害等の被害は見受けられなかったが、ニホンジカの糞が確認された。保護対象種キタカミヒョウタンボクの生育が確認され、結実した個体が見られた。林況に大きな変化はなく、林相は維持されていた。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

白神山地森林生態系保護地域

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 米代西部森林管理署
所在地	秋田県(山本郡藤里町)
面積	4,344.15ha(全体16,971.24ha)
設定年	平成2年
保護林の概要 (設定目的)	日本海型の典型的なブナ林を主体とする原生的な天然林を保存することにより、白神山地における森林生態系からなる自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、森林の管理・学術研究等に資することを目的とする。世界遺産委員会第17回通常会議で、原生的なブナ林が大面積にわたって純林状態で維持されている世界的にも希少な地域であるとして、平成5年12月11日に世界自然遺産に登録された。



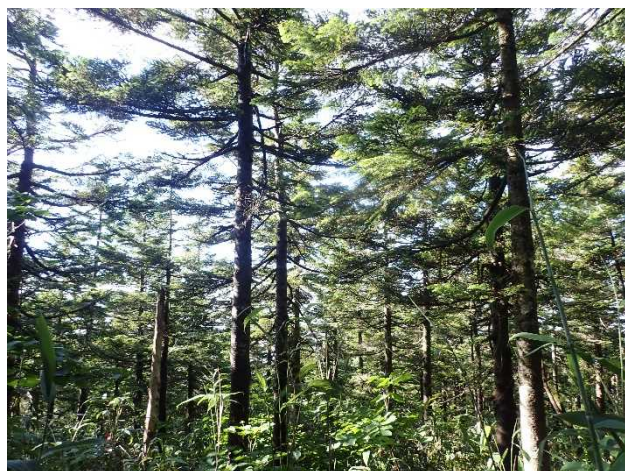
モニタリング調査概要

実施年度	令和3年
調査項目	樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査、野生動物の生息状況調査等
調査手法	森林詳細調査として、ブナ等の生育地において調査プロットを2箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。哺乳類自動撮影、鳥類スポットセンサスを実施。
結果概要	ブナを主体とした森林に病虫害、鳥獣害等の被害は見受けられなかった。両プロットとも幅広い直径階でブナの生育が確認された。樹木、下層植生の生育状況は良好であった。ツキノワグマ等の中・大型哺乳類、森林性鳥類等が確認された。保護林周辺でニホンジカ侵入、ナラ枯れがあり、注視が必要である。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

八幡平生物群集保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 米代東部森林管理署
所在地	秋田県(鹿角市)
面積	1,262.40ha(全体10,234.55ha)
設定年	平成11年4月1日
保護林の概要 (設定目的)	奥羽山脈の中央に位置する八幡平を中心とした山岳地帯に位置し、山地帯から亜高山帯の典型的な垂直分布を示している。また、散在する高層湿原があり、希少な植物が見られる。これらの植物群落を一体のものとして保存するとともに、奥羽山脈緑の回廊の核として森林生態系の効果的な保全に資するために設定する。



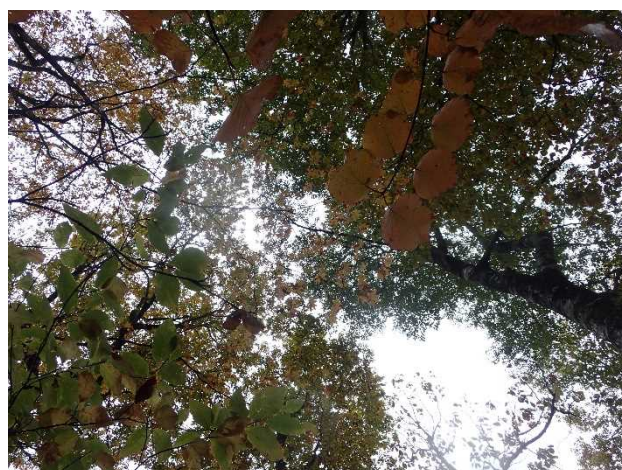
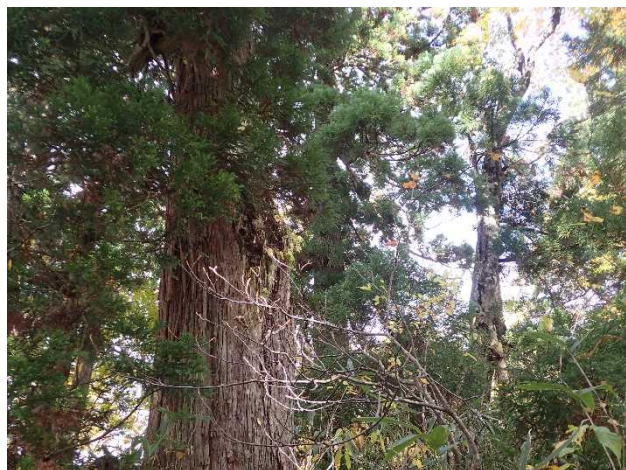
モニタリング調査概要

実施年度	令和3年
調査項目	樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査等
調査手法	森林詳細調査として、アオモリドマツ、ブナ等の生育地において調査プロットを2箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。
結果概要	アオモリドマツ、ブナを主体とした森林に病虫害、鳥獣害等の被害は見受けられなかった。各プロットにおいて、幅広い直径階でアオモリドマツまたはブナの生育が確認された。樹木、下層植生の生育状況は良好であった。林況に大きな変化はなく、林相は維持されていた。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

奥羽山脈北西部生物群集保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 米代東部森林管理署上小阿仁支署
所在地	秋田県(北秋田市、仙北市)
面積	1,061.85ha(全体 1,191.18ha)
設定年	昭和47年4月1日
保護林の概要 (設定目的)	東北地方を南北に縦貫する奥羽山脈北西部の八幡平から西方に派生した支脈にあつて、森吉山の南東側に位置し、緩やかな台地状の山地となっている。標高約800～1,000m程度の高海拔地にブナ林、天然スギ林、クロベ・キタゴヨウ林、低木林、中間湿原等がモザイク状或いは混交して地域的にまとまって発達していて国内では他に例がなく、学術的にも貴重な地域であることから、この区域の生物群集を保護・管理する。



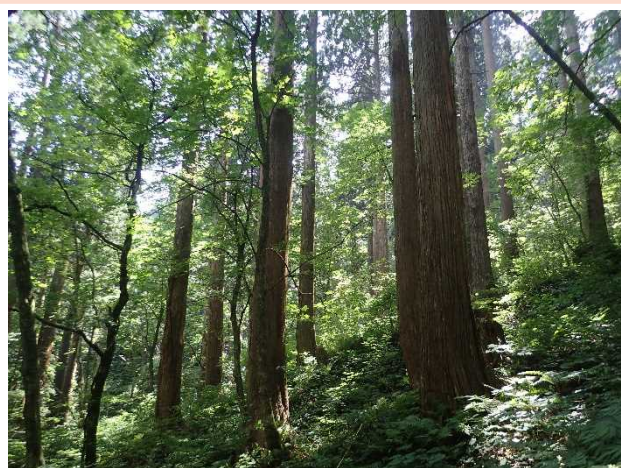
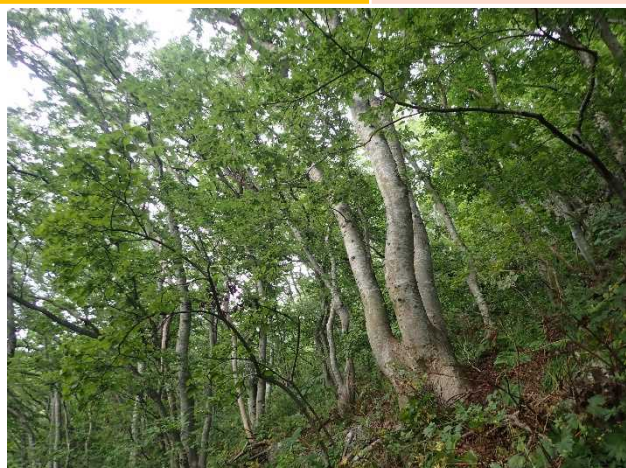
モニタリング調査概要

実施年度	令和3年
調査項目	樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査、野生動物の生息状況調査等
調査手法	森林詳細調査として、ブナ、スギ等の生育地において調査プロットを2箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。哺乳類自動撮影、鳥類スポットセンサスを実施。
結果概要	ブナ、スギを主体とした森林に病虫害、鳥獣害等の被害は見受けられなかった。各プロットにおいて、幅広い直径階でブナまたはスギの生育が確認された。樹木、下層植生の生育状況は良好であった。林況に大きな変化はなく、林相は維持されていた。ツキノワグマ等の中・大型哺乳類、森林性鳥類等が確認された。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

男鹿半島海岸植生生物群集保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 米代西部森林管理署
所在地	秋田県男鹿市
面積	655.08ha
設定年	昭和44年4月1日
保護林の概要 (設定目的)	当保護林は男鹿半島の日本海側の西斜面に位置する。標高150m付近から山頂部まで発達したブナ林は、裏日本ブナ帯にみられるタムシバ、マルバマンサクを欠く。海岸の風衝地には北地海岸風衝林がある。西北部斜面の崩壊地には、低木林に囲まれて亜高山性の植物が見られる。また潮害に弱いとされる秋田スギや、急斜面下部のケヤキ林などの貴重な林分がある。このような多様な植物群落を一体で保存するために設定する。



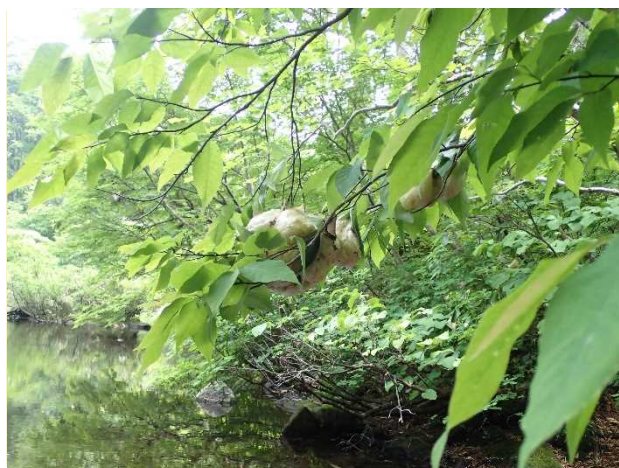
モニタリング調査概要

実施年度	令和3年
調査項目	樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査等
調査手法	森林詳細調査として、ケヤキ、ミズナラ、スギ等の生育地において調査プロットを3箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。
結果概要	ミズナラ、ケヤキ等を主体とした森林では顕著なナラ枯れ被害が確認された。ケヤキは良好な生育が確認された。今後の林分の状況に注視していく必要がある。 一方、ケヤキ林及び天然スギ林では病虫害、鳥獣害等の被害は見受けられなかった。各プロットにおいて、幅広い直径階でケヤキまたはスギの生育が確認された。樹木、下層植生の生育状況は良好であった。林況に大きな変化はなく、林相は維持されていた。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

鳥海山生物群集保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 庄内森林管理署
所在地	山形県(酒田市、飽海郡遊佐町)
面積	4,691.70ha(全体7,240.89ha)
設定年	昭和48年4月1日
保護林の概要 (設定目的)	鳥海山は、多雪山地型の垂直分布帯が典型的に発達し、亜高山帯針葉樹林帯を欠いた特徴を持っている。ブナ・チシマザサ群落の上部にはミヤマナラ、ハイマツ等の群落や雪田植物群落等が広がり、山頂一帯は風衝型の矮性低木群落と火山荒原が発達する。また、保護林内の鶴間池はモリアオガエル産卵地である。このような多様な植物群落を一体で保存するために設定する。なお本保護林に鳥海ブナ林木遺伝資源保存林を統合。



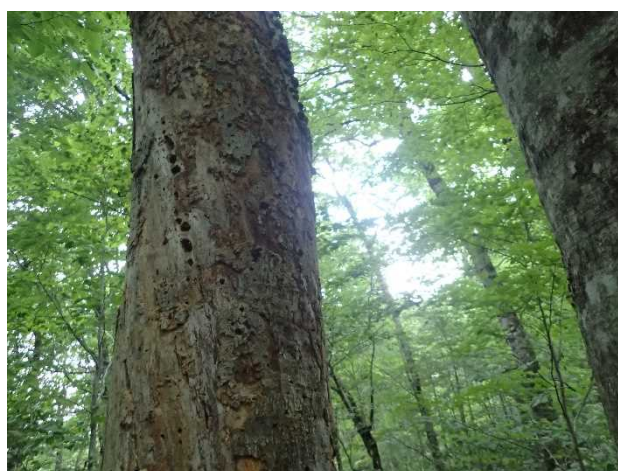
モニタリング調査概要

実施年度	令和3年
調査項目	樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査、モリアオガエル等生息状況等調査等
調査手法	森林詳細調査として、風衝型の矮性低木群落およびブナ等の生育地において調査プロットを3箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。鶴間池及び周辺においてモリアオガエル等生息状況等調査及び植生図作成。
結果概要	調査対象森林に病虫害、鳥獣害等の被害は見受けられなかった。矮性低木群落では胸高直径10cm内外のダケカンバ、他の2プロットでは幅広い直径階でブナの生育が見られた。樹木、下層植生の生育状況は良好であった。鶴間池北東の池で保護対象種モリアオガエルの良好な生息・産卵状況が確認された。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

森吉山クマゲラ希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 米代東部森林管理署上小阿仁支署
所在地	秋田県北秋田市
面積	329.80ha
設定年	昭和57年4月1日
保護林の概要 (設定目的)	本州で初めて生息及び繁殖が確認された国指定天然記念物クマゲラの保護のため。



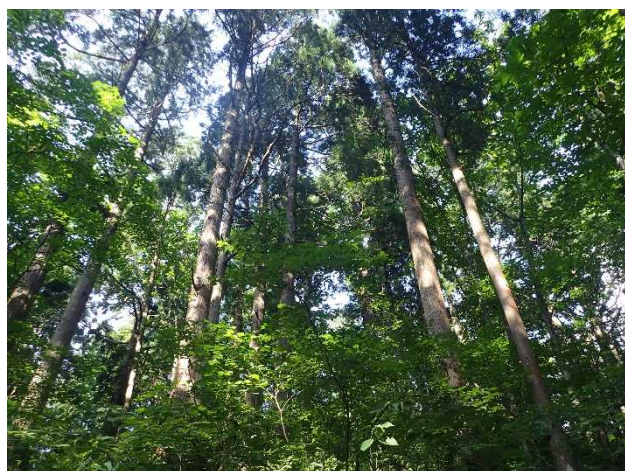
モニタリング調査概要

実施年度	令和3年
調査項目	樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査、野生動物の生息状況調査等
調査手法	森林詳細調査として、ブナ等の生育地において調査プロットを1箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。鳥類スポットセンサスを実施。
結果概要	ブナを主体とした森林に病虫害、鳥獣害等の被害は見受けられなかった。幅広い直径階でブナの生育が確認された。樹木、下層植生の生育状況は良好であった。鳥類調査では36種が確認された。保護対象種クマゲラの生息は確認できなかったが、ヒアリング調査では周辺地域における恒常的な生息は確認されているとのことであった。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

小掛山スギ希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 米代西部森林管理署
所在地	秋田県能代市
面積	16.20ha
設定年	昭和44年4月
保護林の概要 (設定目的)	藩政時代における御留山として名残りをとどめるスギ天然林の保護のため。



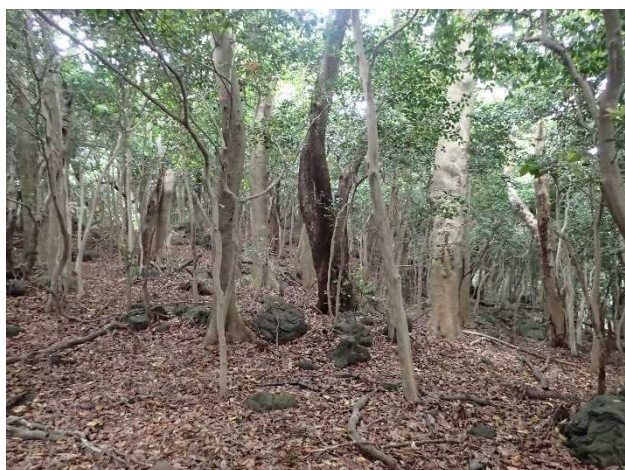
モニタリング調査概要

実施年度	令和3年
調査項目	樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査等
調査手法	森林詳細調査として、スギ等の生育地において調査プロットを1箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。
結果概要	スギを主体とした森林に病虫害、鳥獣害等の被害は見受けられなかった。保護対象種スギは幅広い直径階に見られ、保護林内での良好な生育が確認された。林況に大きな変化はなく、林相は維持されていた。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

女鹿タブ遺伝資源希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	東北森林管理局 庄内森林管理署
所在地	山形県飽海郡遊佐町
面積	6.09ha
設定年	平成元年
保護林の概要 (設定目的)	鳥海山の西麓、日本海に面する女鹿集落の裏山に位置し、局部的にタブが純林状をなしている。本種の北限にも近く、町の天然記念物にもなっている。このタブノキの遺伝資源の保存。なお、本保護林は女鹿タブ林木遺伝資源保存林から移行したものである。



モニタリング調査概要

実施年度	令和3年
調査項目	樹木の生育状況調査、林床植生の生育状況調査等
調査手法	森林概況調査として、タブノキの生育地において調査ルートを設定し、樹木・下層植生の生育状況、病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況を把握。森林生態系多様性基礎調査の結果も活用。
結果概要	タブノキを主体とした森林に病虫害、鳥獣害等の被害は見受けられなかった。保護対象樹種タブノキは高木層、亜高木層、低木層で良好な生育が確認された。林況に大きな変化はなく、林相は維持されていた。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。